



第24号  
 編集発行／碧南市  
 哲学たいけん村  
 無我苑  
 所在地／碧南市坂口町3-100  
 〒447-0087：TEL. 0566-41-8522  
 ：FAX. 0566-41-7761

## 名誉村長特別講演会

演題 「清澤満之と親鸞」  
 講師 哲学たいけん村無我苑名誉村長 梅原 猛氏



平成十七年十二月十一日午後二時から碧南市芸術文化ホールエメラルドホールにて、哲学者で、哲学たいけん村無我苑名誉村長梅原猛先生の特別講演会が開催されました。講演の詳細については、以下の要約をご覧ください。

### 清澤満之と歎異抄

今年には親鸞の話をした。親鸞といえ、この碧南の地が生んだ偉大な仏教者である清澤満之の話をしていわけにはいかない。清澤満之は明治以後の仏教者の中で五指に入る偉大な人で、その影響力は大変大きく、まさに近代真宗学を作り出したといつて過言ではない。しかし、清澤満之がどういふ活動をしたかはあま

り知られていない。明治二二年に書かれた『宗教哲学骸骨』にあるとおり、清澤満之は日本の近代哲学をはじめた最初の人と言つても過言ではない。つまり仏教を取り入れて新しい哲学を開いた最初の人である。この道を後にいろいろな人が進む。東洋と西洋の思想を総合して新しい人類の哲学をつくるという夢をもって東洋大学を開いた井上円了、その後西田幾多郎に継承され「善の研究」に受け継がれる。日本の創造的な哲学の大きな流れであり、この流れをいち早く作つたのが清澤満之である。私が今読んでも大変すばらしい思想である。一方で若くして当時の哲学界の大物を批判すると共に、懺悔、自己反省の強さも相当なものである。清澤満之の大きな功績は、日本の近代哲学の開祖であると同時に、親鸞の教えを唯円が記した『歎異抄』を一般の人に広く知らしめた。『歎異抄』は、江戸時代まで本願寺の倉庫に眠っていたものを、江戸時代の真宗学者が解説書をつくつたが、専門家の間にしか知られていなかった。『歎異抄』を清澤満之は『エビクテー』と共に入りの書とし、そこから一般の人にまで知られ、ポピュラー

な本となった。残念ながら三九歳の若さで亡くなったが、死後、暁鳥敏、佐々木月樵、曾我量深、金子大栄を中心とした弟子達も『歎異抄』をバイブルとした。しかし、親鸞の著書ではない『歎異抄』をバイブルとし、そこに強く語られている悪の自覚、悪人正機の説ばかりが取り上げられるところに近代真宗学の問題がある。



清澤 満之  
 (写真提供＝西方寺)



清澤満之終焉の地である西方寺にある  
清澤満之記念館（碧南市浜寺町）

## 親鸞

『歎異抄』は唯円の著書であって親鸞の著書ではない。やはり親鸞の思想を語るには親鸞の著書に基づかなくてはならない。親鸞の代表的な著書は『教行信証』であり、他にも多くの「教文」や「和讃」を作った。『教行信証』は東国在任時に書いたが、晩年まで三十年かけて推敲し続けたものである。親鸞は九十歳まで生きたが、「教文」や「和讃」の多くは八十歳を超えてから書かれたものである。これらの書は、当時の仏教への厳しい批判であり、自己の心、行いへの批判が書かれている。このような書は日本の歴史の中に類がない。懺悔、自己反省の考えは清澤満之にも近い。親鸞は『教行信証』で父親である王様を殺し、自分が王位に就いた悪王アジャセ王に自分を比して、人殺しは悪い人間がすることだけれど、自分だって何かことがあるれば人を殺したかもしれないと考えた。近頃は殺伐とし

た事件が多いが、そのような事件に対し多くの人は、あんな人は特別だというが、親鸞はそういう身になつたら自分もするかもしれないと、痛烈な反省をしている。

## 法然と親鸞

親鸞自らは、自分は法然の弟子であり、自分が語っているのは法然の説であり、親鸞独自のものではないという。法然の思想の特徴は念仏である。それまでの限られた人のみが行う観念念仏から、だれでもでき、往生できるという口称念仏へと念仏の解釈に画期的な変化を与えた。そこには悪人や凡夫、女性も口称念仏により救われるという思想が生まれ、日本全国に広がった。しかし法然と親鸞の大きな違いは生活態度である。法然は、このような思想でありながら、自分は一生戒を守った。それに対し、親鸞は肉食妻帯にふみきった。このことによって、親鸞はより悪の自覚は深くなるのである。私にはどちらが一概に正しいとは言えないが、おのずから同じ思想でも形は違ってくるのである。

## 二種廻向の説

親鸞といえば「悪人正機説」が有名であり、たしかに親鸞は悪の問題に甚だ敏感である。しかし親鸞の説は決して「悪人正機説」にとどまらないのである。『第二十一書簡』で親鸞は二種廻向の説を説く。法蔵菩薩は難行苦行の末、四十の願を立てた。その中に念仏すれば極

楽浄土へ往生できるという願がある。これを往生廻向という。これは行きの願であり、逆に帰りの願もある。極楽浄土へ行った人間がまたこちらへ帰ってくる。これを帰りの願、還相廻向という。どうして極楽浄土へいった人間が帰ってくる必要があるのだろうか。これは、仏教の自利他の思想がここにある。自分だけが極楽へ行き、そこで永遠に幸せに暮らすならば、それは自利の業ではない。この世にたくさん悩める人がいるならば、この世界に帰ってきて、その人たちを救う必要がある。これを還相廻向という。このような二種廻向の思想が法然及び親鸞の思想の核心である。生まれ変わりの思想である。この説を説いたのは天親の『浄土論』と曇鸞『浄土論註』である。この天親、曇鸞から名前を取って付けたのが親鸞である。このことから、いかに親鸞が二種廻向の説を重視していたかがわかる。しかし、近代真宗学ではこの二種廻向の説はほとんど説かない。それも当然である。なぜなら、科学を信じる近代人にとって、死後、浄土へ行くとは信じ難い。個人として考えればそうかもしれないが、遺伝子を主体として考えれば、遺伝子は子孫に伝わることにより生まれ変わり死に変わりし永遠の旅をしているといえる。我々の生命の中には何十億年という地球の歴史が宿っているのであり、二種廻向の説も非科学的とは言えない。

このような親鸞の執拗な思弁によってできあがった思想体系を基礎にしてつくられた浄土真宗の教義を、わかりやすく

民衆に伝え、浄土真宗を今日のような巨大な教団に組織した蓮如もまた、親鸞の説の中心が二種廻向にあることを十分理解していた。

## 等正覚の思想

このように念仏による往生を確信した人間は、現世で等正覚すなわち弥勒に等しくなると親鸞は語るのである。『歎異抄』による悪人正機説に代わって、『教行信証』をはじめとする親鸞の著書による二種廻向の説、等正覚の説が今後の真宗学のコアにならねばならないと私は思う。

## 本の情報

● 小学館

## 親鸞の告白

梅原 猛著



### はじめてのお茶会 新春編を終えて

▼日時 平成一八年一月二一日(土)  
九時～一二時

▼場所 無我苑及び付近

▼指導 東中作法部(顧問・鈴木希糸子  
教諭)  
鳥居典光氏ほか

無我苑では、初めてとなる小学生を対象にしたお茶会を開催しました。お正月ということもあり、無我苑周辺にてセリやナズナ、ゴギョウなど「春の七草」摘みを体験。その後お茶についての勉強をし、お茶会を体験しました。

無我苑から歩いて七草摘みに。春の七草全てでありました。



お茶についての勉強をし、碧南特産のニンジンのジュースや菜の花のおひたしなどを添え、七草粥を食べました。



少し緊張しながらのお茶会。たまにはこんな体験も良いかな？



参加した児童の皆さんには大変好評でした。来年度以降も小学生を対象とした催しを開催したいと思います。

### 野草苑

研修道場安吾館の北側に、茶花や野の花の育つ野草苑があり、来苑者の目を惹かせてくれています。それぞれの植物には名前が表示してありますので、花を楽しみながら名前も覚えられます。

#### 春・夏に見ごろの 茶花・野草

みつまた(三桎) ジンチヨウゲ科

花期三月～四月

きょうがのこ(京麩子)バラ科

花期五月～七月

からいとそう(唐糸草)バラ科

花期七月～十月



野草苑隣の駐車場内にあるすもの木。四月上旬に白い花が咲きます。

### 寄付

生田豊治氏より、野点用机「扇面末広棚」、釜「車軸釜」、野点傘、水差し、数茶碗をご寄付いただきました。



第二四回企画展示「海から天・地そして心の古里へ」で作品を展示された森岡完介氏より、シルクスクリーン「Message 827N」を寄付いただきました。



## 平成18年度涛々庵茶会・三曲演奏予定表

月 日	涛々庵茶会		三 曲 演 奏	
	席 主	流 派	箏 曲	尺 八
平成18年 4 月23日	安形 亮照 (宗照)	裏千家	祥友会	竹秀会・祥友会
5 月28日	高山 恵子 (宗恵)	表千家	絲音の会	竹秀会
6 月25日	杉浦みどり (宗翠)	裏千家	永坂会	竹秀会
7 月23日	杉浦 時子 (宗時)	宗偏流	祥友会	竹秀会・祥友会
8 月27日	小島 和美 (宗美)	裏千家	若草会	竹秀会
9 月24日	沢田 教子 (宗教)	表千家	絲音の会	竹秀会
10月22日	小沢わさ子 (宗和)	松尾流	永坂会	竹秀会
11月26日	磯貝 勝代 (宗代)	裏千家	祥友会	竹秀会・祥友会
12月17日	小笠原美美 (宗文)	久田流	若草会	竹秀会
平成19年 1 月28日	山田 昇 (宗昇)	裏千家	絲音の会	竹秀会
2 月25日	杉浦 とめ (宗登)	久田流	永坂会	竹秀会
3 月25日	小笠原 利 (宗紅)	裏千家	若草会	竹秀会

### お知らせ

#### 涛々庵茶会・三曲演奏

涛々庵茶会は毎月それぞれの席主の創意工夫がなされ、華やかな茶会となっております。また、茶会に華を添える三曲

の演奏も安吾館にて行っております。涛々庵茶会は、本年度も毎月第四日曜日（十二月のみ第三日曜日）に行います。料金は一服四百円、時間は各日とも十時から十五時まで（立礼茶席は十六時まで）です。また、三曲の演奏はお茶会にあわせ随時行っておりますので、ぜひお越しください。



### 来苑者の声(アンケートより)

ボディソニックもメディテーションルームも独り占めでした。背中に温かい何かが上昇するのを初めて感じました。(メディテーションルームにて)

(岡崎市 女性 四八歳)

初めて来ましたが瞑想の部屋は大変気に入りました。ゆったりとした気持ちになれました。今度は家族と来てみたい所です。

(名古屋市 女性 四五歳)

普段よりも心が穏やかになりました。いつもイライラしたり感情的に過ごしてしまっているんだと気づかされました。これからは、心を静かに過ごす時間を持つようにしたいと思います。

(岡崎市 男性 二二歳)

